

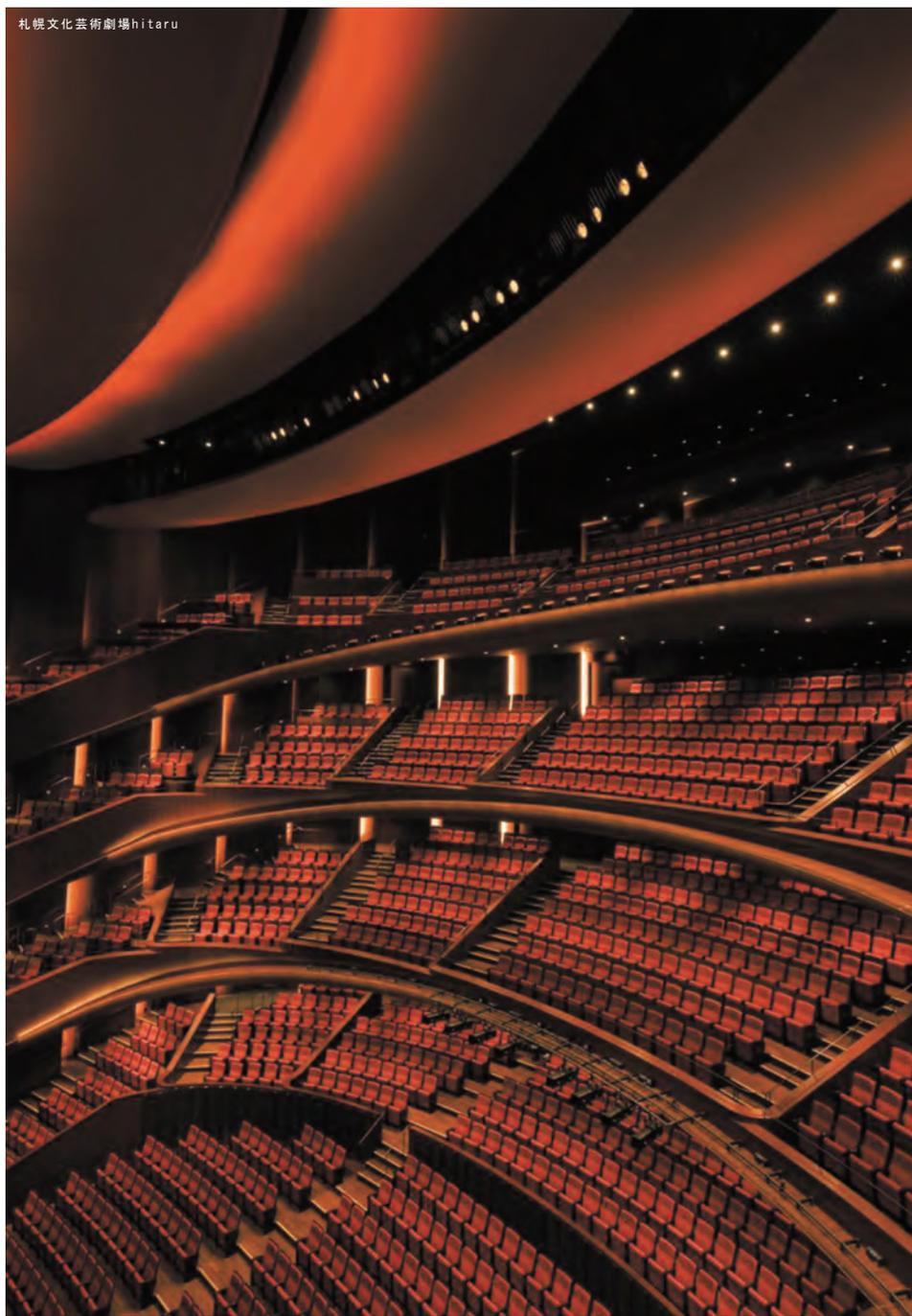
ユネスコ創造都市ネットワーク加盟資格モニタリング報告書

札幌市 **メディアアーツ都市**

2021年11月30日

SAPPORO

定山溪ネイチャールミネリエ



目次

1. イントロダクション／要旨	1
2. 基本情報	2
3. ネットワークの国際的運営への寄与	3
4. UCCNの目標達成に向けて地域レベルで実施する主な取組	4
4.1. 文化的生活へのアクセス促進	4
4.2. 関連分野と連携した取組	5
4.3. 人材育成	8
4.4. 地域独自の冬の文化の促進	9
4.5. 文化資源の魅力発信	12
5. UCCNの目標達成に向けて都市間連携を通じて実施する主な取組	14
5.1. UCCNメディアアーツ都市等との交流促進	14
5.2. UCCN加盟都市との異分野交流促進	14
5.3. アーティストのための機会創出	15
6. 今後4年間のアクションプラン	16
6.1. 地域レベルの取組	16
6.2. 国際レベルの取組	16
6.3. アクションプラン案の実施に係る年間見込予算額	17
6.4. 広報周知に関する計画	17
7. 新型コロナウイルスに関する対応事例及び復興に向けた取組	18
付録	19

1. イントロダクション／要旨

札幌は、日本列島北部の島北海道の最大の都市であり、ひと冬に5メートル近くもの降雪量がある積雪寒冷地域です。この地域課題である豪雪を世界的なイベントへと昇華させた冬のフェスティバルさっぽろ雪まつりや昭和47（1972）年の冬季オリンピックの開催都市として知られています。

北海道には遠い昔から先住民であるアイヌ民族が暮らし、アイヌ民族と、各地から移り住んできた人々のたゆまぬ努力により、北海道そして札幌は形づくられてきました。札幌は明治2（1869）年に開拓使が設置され、その後150年ほどで約200万人まで人口が拡大し、急速な発展を遂げました。令和4（2022）年には市制100周年を迎えることになります。

札幌市民の生活を支える充実した都市機能を有すると同時に豊かな自然や食環境も備え、アートが自然と溶け合う札幌芸術の森やモエレ沼公園といった自然を楽しめる文化施設が多数あります。

平成25（2013）年11月のユネスコ創造都市ネットワーク加盟以降、さっぽろ雪まつりの大雪像へのプロジェクションマッピングなど、メディアアーツを活用した既存の観光資源の魅力向上や、まちの活性化に加え、ネットワーク加盟を生かした国内外の創造都市との交流や、更なる都市ブランドの向上、産業振興・人材育成などに取り組んできました。

札幌の産業は、一定数の人口集積があることで成り立つ「第3次産業」で支えられていますが、近い将来予想される人口減少、とりわけ生産年齢人口の減少により、経済規模の縮小が予想されます。また、昨今の新型コロナウイルス感染症による人々の行動変容やデジタル化の更なる進展、気候変動に起因する様々な変化など、世界の社会経済情勢は大きく変わっていくことが見込まれます。持続可能な都市であり続けるために、成長が期待される分野を中心とした新たな企業や価値の創出、札幌経済をけん引する人材の誘致・育成、デジタルテクノロジーの積極的活用等を通じ、札幌圏外からのヒト・モノ・投資・情報を引きつけ、都市としての価値を高めることに取り組んでいます。



平成30（2018）年10月、都心部に開館した「札幌市民交流プラザ」は、札幌における多様な文化芸術活動の中心的な拠点として様々な活動に取り組んでいます。また、災害に強い施設として設計されており、ライフラインが途絶えた場合でも、電気、水道、空調を約3日間使用し続けることができます。開館直前の同年9月に発生した北海道胆振東部地震においては、観光客等の一時滞在所として活用された実績もあります。

札幌市は、本報告書のとおり、今後も文化と創造性を戦略的要素として認識し、本市の魅力向上に向けて分野横断的に施策を進めていきます。また国際連合の持続可能な開発目標（SDGs）の実現を目指す創造都市ネットワークの行動指針に則り、ネットワークを通じた国際連携や、文化と創造性による持続可能なまちづくりを実践し、誰一人取り残すことのない世界への貢献を図ってまいります。

2. 基本情報

2.1. 都市名	札幌市
2.2. 国名	日本
2.3. 加盟分野	メディアアーツ
2.4. 加盟認定日	平成 25 (2013) 年 11 月 11 日
2.5. 最新報告書の提出日	令和 3 (2021) 年 11 月 30 日
2.6. 報告書作成責任者名	札幌市市民文化局文化部
2.7. 前回提出した報告書及び提出日	平成 29 (2017) 年 11 月 30 日
	日本語 英語 フランス語
2.8. 連絡窓口	札幌市市民文化局文化部文化振興課 創造都市ネットワーク担当係 ✉ creativecity@city.sapporo.jp 〒 060-0001 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目 札幌時計台ビル 10 階 電話：011-211-2261 FAX：011-218-5157



大通公園

3. ネットワークの国際的運営への寄与

札幌市は、下記のとおり、総会や分野別会議への参加を通じて、ネットワークの国際的運営へ貢献しています。

3.1. 過去4年間のUCCN年次総会への参加回数

過去4年間に3回、全ての会議に代表者が参加しています。

- 平成30(2018)年6月 クラフ、カトヴィツェ/ポーランド
- 令和1(2019)年6月 ファブリアーノ/イタリア
- 令和3(2021)年7月 オンライン・ミーティング
「Covid-19からより良く立て直す」取組事例を発表(4.2.2参照)

3.2. UCCN年次総会の開催実績

—

3.3. 加盟都市が参加した作業・連携会議開催実績

メディアアーツ分野の分野会議に積極的に参加しています。

- 平成30(2018)年10月 ヨーク/英国
- 令和1(2019)年10月 プラガ/ポルトガル
- 令和2(2020)年11月 アンギャン = レ = パン/フランス
(オンライン開催)

日本のUCCN加盟都市との国内会議に積極的に参加しています。

- 平成30(2018)年10月 名古屋/日本
- 令和1(2019)年11月 神戸/日本
- 令和2(2020)年10月 金沢/日本
- 令和3(2021)年9月 札幌/日本(オンライン開催)

3.4. ネットワーク加盟都市が参加した国際会議・ミーティングの開催実績

3.4.1. 会議を主催

- 平成30(2018)年11月 『北海道・東北ブロック会議』
参加都市：旭川、鶴岡、山形/日本
- 令和2(2020)年12月 『創造都市さっぽろオンラインセミナー』
参加都市：神戸/日本
- 令和3(2021)年2月 『Sapporo Media Arts Online Talk 2021』
参加都市：旭川/日本、コシツエ/スロバキア

3.4.2. 会議に参加

- 平成30(2018)年3月 オースティン/米国
『SXSW2019』への担当者派遣
- 平成30(2018)年10月 光州/韓国
『アジア文化フォーラム』への有識者派遣
- 令和1(2019)年7月 光州/韓国
『ISEA 2019』への担当者派遣
- 令和1(2019)年10月 アドレード/オーストラリア
『アジア太平洋創造都市会議』への有識者派遣
- 令和1(2019)年11月 コシツエ/スロバキア
『コシツェアート&テックデイズ2019』への有識者派遣



3.5. UCCNの運営・広報等を目的とした財政的支援及び現物支給等

財政的な支援は未実施ですが、札幌市役所のWEBサイトや市内等で配布するパンフレット等の広報媒体を通じ、UCCNに関する日本語での広報・PRを実施しています。

3.6. 幹事会への参加期間

平成28(2016)年9月以降は参加していません。
平成31(2019)年のファブリアーノ年次総会では、メディアアーツ分野の幹事都市が抱える業務負担を軽くすることを目的に、ワーキンググループを形成し、札幌市は積極的に参加しています。

3.7. 加盟申請書の審査への参加

メディアアーツ分野での申請都市4都市の申請審査へ参加

- 平成29(2017)年 加盟申請書審査 2都市
- 令和1(2019)年 加盟申請書審査 1都市
- 令和3(2021)年 加盟申請書審査 1都市

3.8. 加盟資格報告書の審査への参加

メディアアーツ分野での加盟都市4都市の報告書審査へ参加

- 平成30(2018)年 加盟資格報告書審査 2都市
- 令和1(2019)年 加盟資格報告書審査 1都市
- 令和2(2020)年 加盟資格報告書審査 1都市

4. UCCN の目標達成に向けて地域レベルで実施する主な取組

札幌市では、文化と創造性による持続的なまちづくりを目指して、各種文化施設の設置や都心における創造的公共空間の整備を進め、地下歩行空間、インタークロス・クリエイティブ・センター（ICC）、札幌市民交流プラザを開設しました。札幌市民交流プラザの図書・情報館ではオープンデータを活用し、都市の発展と文化の広がりを植物のモチーフとした映像「SAPPORO KNOWLEDGE TREE」がデジタルサイネージで上映されています。

これらの資源を生かして市内の様々な場所で開催される大小のイベント、プロジェクト等を通じて、人材育成や創造産業の支援、市民の文化的な生活へのアクセス向上を図っています。

4.1. 文化的な生活へのアクセス促進

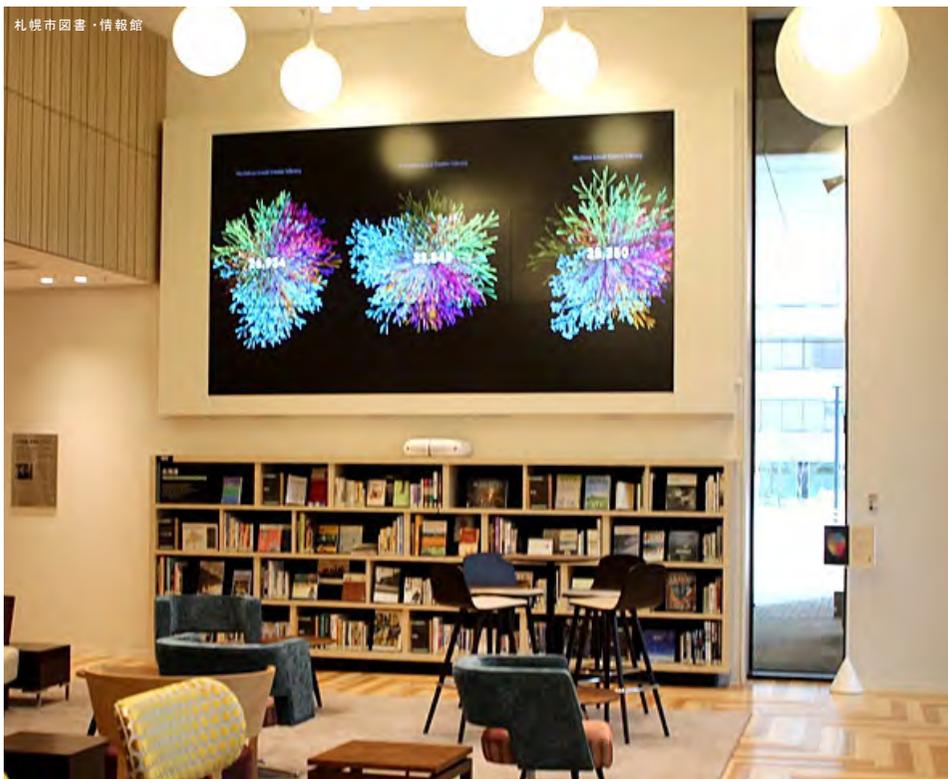
4.1.1. 札幌文化芸術交流センター SCARTS

平成 30（2018）年 10 月に札幌市の文化芸術拠点として開館した複合施設「札幌市民交流プラザ」内には、文化芸術を支え、育てていく札幌文化芸術交流センター SCARTS があります。SCARTS は「あたらしい表現の可能性をひらく」ことをミッションに掲げており、その一環としてメディアアーツ関連のプロジェクトも実施しています。

公式サイト <https://www.sapporo-community-plaza.jp/>

++A&T—SCARTS ART & TECHNOLOGY Project—（プラプラット）

- 令和 1（2019）年に ++A&T—SCARTS ART & TECHNOLOGY Project—（プラプラット）が始まりました。アートとテクノロジーの関わりをテーマにアーティストや研究者、そして若者が共に創造の「場」をつくっていくプロジェクト。3D スキャナーやシミュレーター、ゲームエンジン等を使用した映像や電子装置制作、3D モデリングなどのワークショップを実施しています。
- 令和 3（2021）年には、CoSTEP（北海道大学科学技術コミュニケーション教育研究部門）と連携し、医療、農業から環境保全まで、さまざまなスケールで私たちが「生きる」ことと密接に関わるバイオ・テクノロジーにも着目しました。



4.1.2. 札幌国際芸術祭（SIAF）

創造都市さっぽろの象徴的事業として始まったトリエンナーレ。第3回のSIAF2020は、専門性を持つ3名のディレクターチームの下、「Of Roots and Clouds: ここで生きようとする」をテーマに、初めての冬開催を予定しておりました。新型コロナウイルス感染症の影響を受け、中止となりましたが、SIAF2020で予定されていた作品やプロジェクトの構想などをオンラインコンテンツや冊子、展示などを通じて公開する「SIAF2020 特別編」を実施しました。



公式サイト <https://siaf.jp/>



4.1.3. SIAF ラボ

SIAF ラボは、平成 27（2015）年に札幌国際芸術祭（SIAF）を支える文化の土壌作りを目指して誕生し、ジャンルの垣根を越えて多彩なプログラムを実施する、オープンで実験的なプラットフォームとして活動を続けています。令和 2（2020）年以降は、アーティストの立場に立って実際に作品制作・展示や公演を行うアートプロジェクト、北国・札幌の暮らしの中での可能性を模索する研究開発（R&D）プロジェクト、人材育成・発掘の3本を柱として活動しています。



公式サイト <https://siaflab.jp/>

4.2. 関連分野と連携した取組

文化芸術を教育、地域社会、福祉、経済などの関連分野に活用し、文化芸術のもつ創造性をこれらの関連分野においても生かし、様々な場面で創造的な活動を行うことで、市民の創造性を刺激します。

4.2.1. クリエイティブコンベンション NoMaps

先端テクノロジーや斬新なアイデアを核に「新しい価値観」「新しい文化」「新しい社会の姿」を提案するクリエイティブコンベンション。平成 29（2017）年より、国内でメディアアーツ先進事例を有する団体 YCAM や IAMAS から講演者を招き、最先端のアート、ビジネス、サイエンスがどのように社会に影響を与えているかについてメディアアーツ・ミートアップを実施しています。また、NoMaps 2019 では、MIT メディアラボ副所長石井教授から「未来への対話」について高校・大学生への講演を行いました。

公式サイト <https://no-maps.jp/>

ローカル・クリエイターズ・エキシビジョン

- 平成 29（2017）年より、札幌都市圏でメディアアーツ作品の制作や、最新テクノロジーを応用した創造的問題解決に取り組む学生たちの作品展示を行っています。作品制作や活動披露の機会を提供し、地元クリエイターによるアドバイスなども設けることで、クリエイター人材の育成を目指しています。
- 完成作品は広く市民の目に触れる地下歩行空間にて行い、札幌全体のクリエイティビティ喚起と創造都市さっぽろの認知向上へ繋げています。
- 令和 2（2020）年度には、市内支援学校の身体的にハンディを抱えた児童のメディアアート制作も含まれています。

< 開催期間 >.....
毎年 10 月中旬または 2 月中旬

< 来場者数 >.....

開催年	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)
来場者数	2,028	2,490	-	1,593

4.2.2. コロナ禍での密にならないイベント実証実験

あしたのげいもり (NoMaps)

コロナ禍により自粛生活が続く中、「with コロナ」の状況下での可能性を探る企画として、野外施設を複数有する**札幌芸術の森**を会場に、子どもから大人まで幅広い世代の人たちが楽しめる音楽ライブフェスティバルを令和2（2020）年10月10日に開催し、342名が来場しました。来場者は、個々に携帯する高音質の「FM ラジオ」を通してライブパフォーマンスの音楽を聞きながら会場を散策し、アートやプロジェクションマッピングなどを楽しみました。



キッズ・アート・フェス

芸術の秋と言われる11月に様々なアートイベントを集中的に行う「さっぽろアートステージ」の中で、コロナ禍における子どもたちの作品制作支援及び発表機会創出のため、Zoomによるオンラインワークショップ（音楽・映像・写真コラージュ）及び展示会を**札幌市民交流プラザ**で令和2（2020）年11月に開催しました。事前の募集により集まった子ども達の絵画作品約800点を用いて立体作品を制作・展示したほか、札幌市出身のアーティスト4名が子ども達と一緒に作成した作品等の展示・オンライン公開を行いました。

SYNCHRONICITY 2020 (NoMaps)

コロナ禍での実験的な取組として、ユーザーのスマートフォンから流れる音楽と、街そのものに仕込まれた光などの演出が同期する、新しいコンテンツ体験として実施されたシンクロシティは令和2（2020）年10月に二日間実施されました。参加者は4,160名、コンテンツ閲覧者は9,043件にのびりました。メイン会場である札幌市北3条広場「アカブラ」で、イベントの特設ページから初音ミク楽曲の歌詞アニメーションを再生すると、周辺の演出と楽曲が同期し、街全体の演出を楽しむことができます。また参加者は、配布されたVRゴーグルと各自のスマートフォンを通して、「SYNCHRONICITY 2020」のバーチャル会場で初音ミクが歌うVRコンテンツを鑑賞できる仕組みです。本取組はコロナ禍における事業の好事例として推薦され、令和3（2021）年7月に行われたUCCN年次総会で発表の機会を得ました。



4.2.3. メディアアーツの発表及び表彰機会の創出

札幌市は、北海道との共催で「北のまんが大賞」を実施しています。歴史・文化・自然・食など、北海道の特徴を素材にした漫画等を募集し、北海道の魅力アップにつながる作品に賞をおくるものです。まんが部門のほか、平成 30（2018）年よりイラスト部門も創設し、幅広い年代からの作品を表彰しています。

4.2.4. メディアアーツの地域への広がり

都市圏以外での芸術体験の機会を創出するため、市内各地でメディアアーツを活用したイベントを展開しています。

厚別区誕生 30 周年記念イベント「あつべつフォト&スタンプラリー」

- 令和元（2019）年に 30 周年を迎えた厚別区で、地域の魅力とメディア芸術を融合させた展示やイベントを令和 2（2020）年に企画しました。新型コロナウイルス感染症の影響により小学生向け制作ワークショップや AI 技術体験は中止となりましたが、フォトスポットやスタンプラリー用スタンプコーナーには会場を周遊する家族連れの姿が多く見られ、厚別区の魅力を再発見する機会を創出しました。

定山溪ネイチャールミネリエ

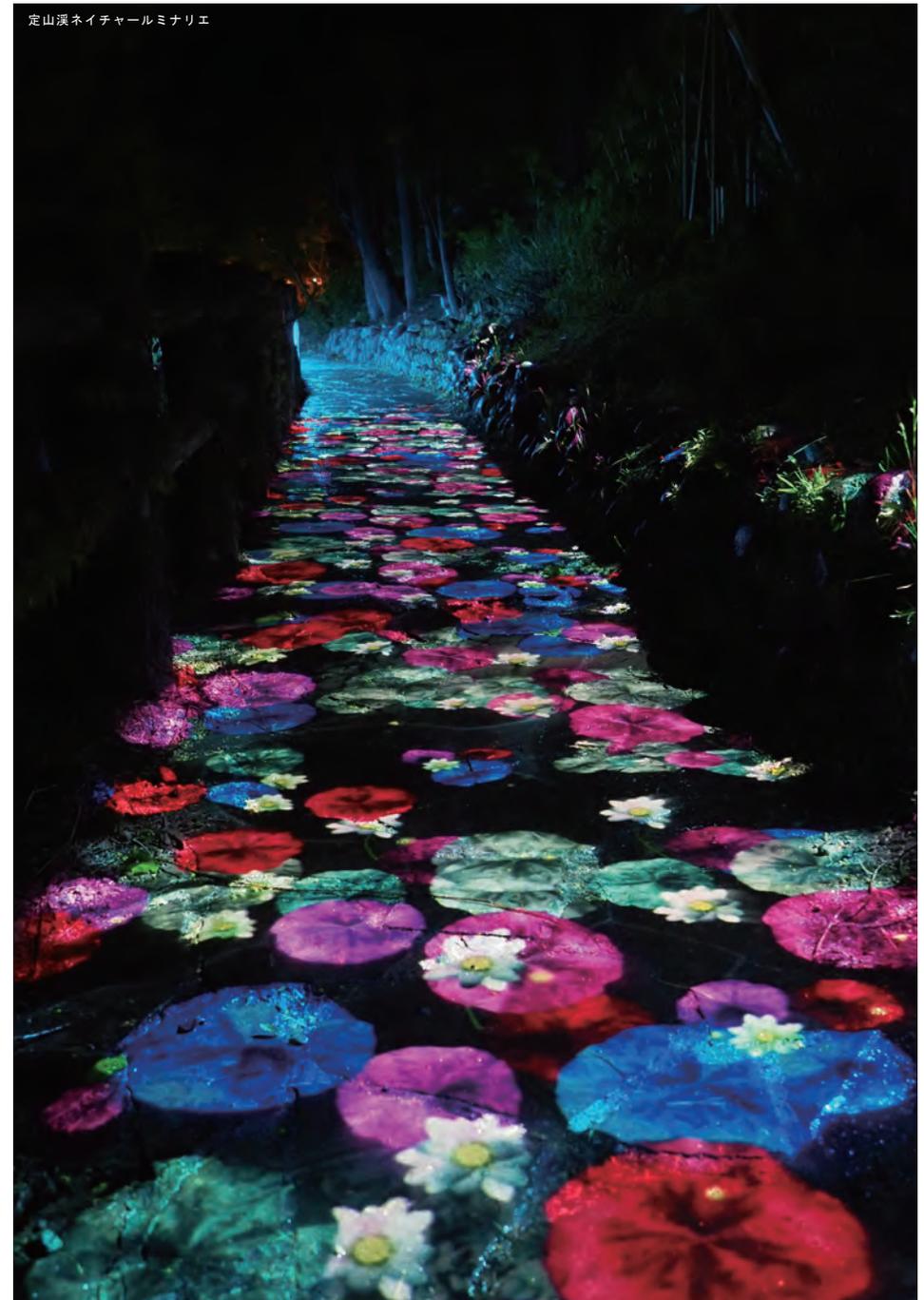
- 定山溪地区は、国立公園の一部として指定されている山林地区で、札幌市の南部に位置しています。標高 1,000 メートル前後の山々に囲まれた札幌の温泉街としても知られており、今年開湯 155 周年を迎えました。初夏から秋にかけて、自然散策路を幻想的な光で彩るイベント「定山溪ネイチャールミネリエ」を開催しています。令和 2（2020）年は、新型コロナウイルスの影響により来場者数がやや落ち込んだものの、温泉街の散策路を活用し、自然とイルミネーション、プロジェクションマッピングを融合させた、都市圏では味わえない没入型のイベントとして、地区のにぎわいを創出しています。

< 開催期間 >.....

毎年 6 月上旬から 10 月中旬

< 来場者数 >.....

開催年	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)
来場者数	51,409	53,616	43,161	集計中



4.3. 人材育成

4.3.1. 札幌市青少年科学館との連携事業

札幌市青少年科学館は、科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通して創造性豊かな青少年を育成することを目的に、昭和 56（1981）年 10 月に開館。平成 28（2016）年には、プラネタリウムがリニューアルされ、4K プロジェクターが導入されました。「メディアアーツ都市札幌」の啓発とその将来を担う人材育成の一環として、平成 30（2018）年度に札幌市青少年科学館と連携し、新しいテクノロジーを活用した映像表現の鑑賞や創作体験を行いました。創造性と科学の学びに同時に親しむ機会を創出することで、科学館の新たな魅力の掘り起こしを図りました。

学生向けドーム映像制作ワークショップ

- 札幌市在住の講師を迎えて、参加者は 30 秒間のドーム映像を制作し、プラネタリウムで投影しました。

子ども向け STEAM 体験講座

- 札幌市内の企業やクリエイターなどと連携し、子ども向けの STEAM 体験プログラムを実施しました。



4.3.2. TouchDesigner ワークショップ

VJ やプロジェクションマッピングなど様々なメディア表現に使用されているプログラミングツール "TouchDesigner" を用いて、映像制作や音声と同期したリアルタイム演出技法を学ぶワークショップを、市内学生やクリエイターに向けた初級～中級者向けに開催しました。

世界の第一線で活躍する研究者やクリエイターを講師とした座学も同時に開催し、創造性に関する知見を深め、視座を高める機会としました。ワークショップを通じて作成した動画は地下歩行空間サイネージ等で上映しました。

4.3.3. アートエンジニアリングスクール（SCARTS x SIAF ラボ）

札幌文化芸術交流センター SCARTS と SIAF ラボの共同プロジェクト「アートエンジニアリングスクール」を開講し、現代アートやメディアアートの作品制作や展覧会を支える技術とその基本的な考え方について考え、学んでいく各種プログラムに取り組んでいます。YouTube での動画配信を令和 2（2020）年 7 月から始め、令和 3（2021）年 11 月 30 日時点で 22 本の講義・演習の動画が視聴可能となっている他、実際の制作現場の裏側を見学できる「Backstage Pass（バックステージパス）」も実施しています。

公式サイト <https://art-engineering.school/>

4.4. 地域独自の冬の文化の促進

4.4.1. さっぽろ雪まつり

さっぽろ雪まつりは、昭和 25（1950）年に地元の中・高校生が 6 つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まりました。その後、高さ 15m に及ぶ大雪像をはじめとした約 200 基の雪氷像が設置される、札幌を象徴するフェスティバルにまで発展しました。

このフェスティバルは、かつては日常生活の障害物としか見られていなかった「雪」を天然資源として活用し、大きな経済波及効果をもたらす文化コンテンツを生み出しています。

公式サイト <https://www.snowfes.com/>

大雪像へのプロジェクションマッピング

- 平成 24（2012）年に、大雪像へ映像を投影する「プロジェクションマッピング」を取り入れて以来、観客動員も増加傾向にあり、平成 31（2019）年の来場者数は過去最多の 273.7 万に上りました。しかし、令和 2（2020）年は新型コロナウイルス感染症の影響を受け来場者が減少し、令和 3（2021）年はオンラインによる開催となりました。

国際雪像コンクール

- 昭和 49（1974）年からは、国際雪像コンクールを実施し、札幌とつながりの深い外国地域も参加しています。

参加地域：韓国、オーストラリア、アメリカ、フィンランド、インドネシア、ラトビア、マカオ、ポーランド、シンガポール、タイ、モンゴル、リトアニアなど

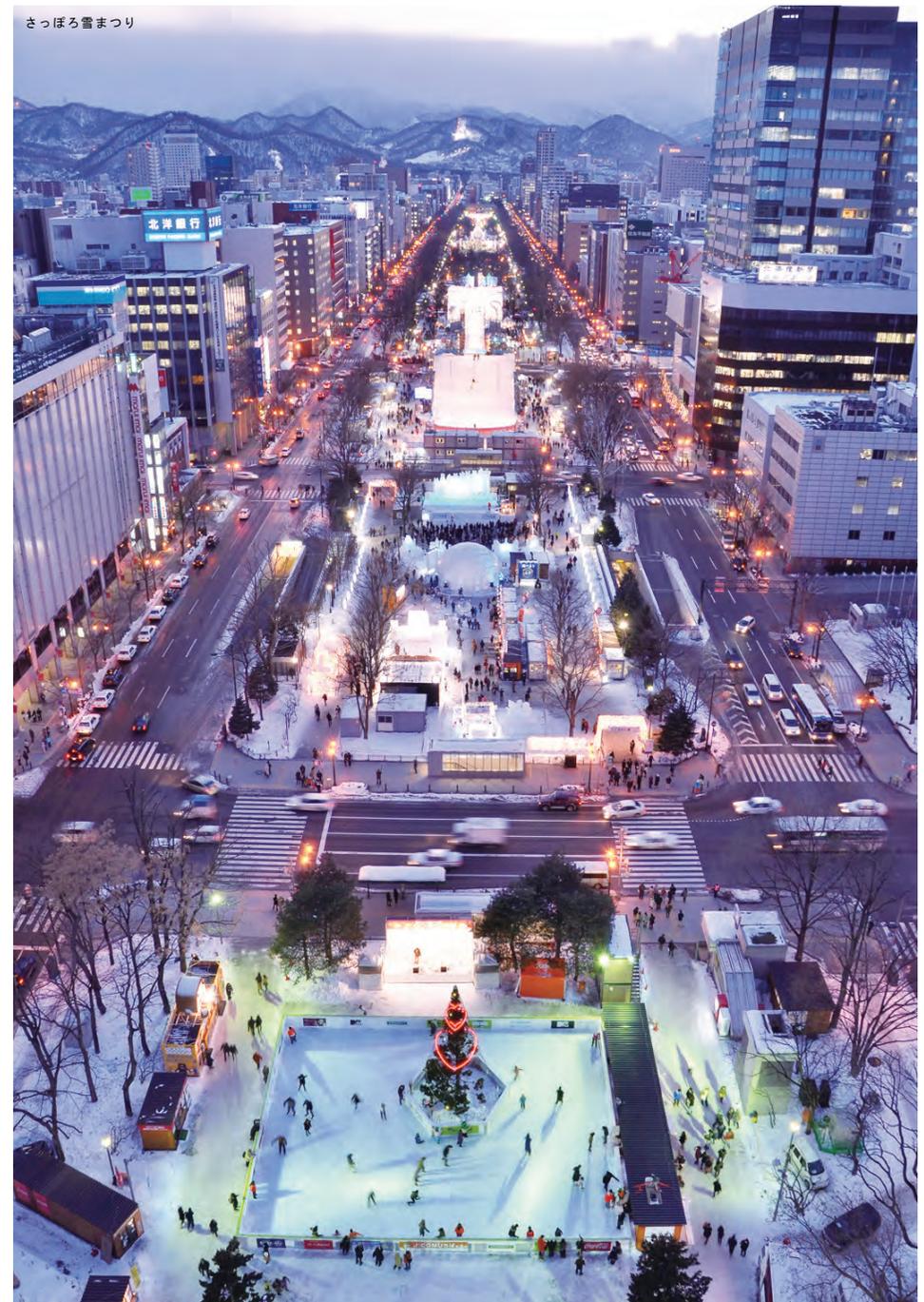
〈開催期間〉.....

毎年 2 月上旬から中旬

〈来場者数〉.....

開催年	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)
来場者数	254.3 万	273.7 万	202.1 万	77.1 万*

* オンラインの視聴者数





4.4.2. さっぽろホワイトイルミネーション

日本初のイルミネーションとして、昭和 56（1981）年にわずか 1,048 個の電球で始まった「さっぽろホワイトイルミネーション」。札幌の美しい雪景色を光で表現するというユニークなコンセプトにより、当時全国的に大きなインパクトを与え、日本中にイルミネーションが広がる先駆的な役割を果たしてきました。

その後も、大通公園をメイン会場に、持続可能性を目的とした LED 化やバイオディーゼル燃料を取り入れながらさらなる進化を続け、観光都市札幌を象徴する「雪」と「光」の魅力を市民や観光客に発信しています。

平成 29（2017）年度から、札幌市北 3 条広場（アカプラ）会場と札幌駅南口駅前広場会場をイルミネーションの会場として追加しました。札幌の中心街を一体的なイルミネーションの幻想的な光で彩ります。また、地元のサウンドアーティストによる音楽と光を連動させた演出を行っています。

公式サイト <https://white-illumination.jp/>

〈開催期間〉.....

毎年 11 月下旬から 3 月中旬



4.4.3. さっぽろユキテラス

メディアアーツ都市札幌を象徴するイベント。平成 27（2015）年からスタートし、札幌の特徴の一つである雪と光をモチーフにした作品を展示し、新たな冬の魅力を発信しています。令和 3（2021）年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

〈開催期間〉.....

毎年 2 月上旬から中旬

〈来場者数〉.....

開催年	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)
来場者数 (概数)	2 万	2.6 万	1.8 万

4.4.4. さっぽろ垂氷まつり（SIAF ラボ）

SIAF ラボは、冬の特徴的な現象である「つらら」をメディアとして捉えたアートプロジェクト「Bent Icicle Project - Tulala」の一環として、さっぽろ垂氷（たるひ）まつりを開催しました。つららを、アート、サイエンス、文化などさまざまな側面から考え、札幌の冬を再発見する展覧会です。

〈開催期間〉.....

毎年 2 月上旬から中旬 ※ R2（2020）年でプロジェクト終了

〈来場者数〉.....

開催年	H30 (2018)	H31 (2019)	R02 (2020)
参加者数	12,682	10,335	10,364

4.4.5. さっぽろウインターチェンジ (SCARTS x SIAF ラボ)

札幌文化芸術交流センター SCARTS を会場に、「さっぽろウインターチェンジ」を平成 31 (2019) 年から開催しています。このイベントは、積雪量が最も多いと言われる 2 月に開催される冬のプログラムで、冬や雪に焦点を当て、メディアアートの手法を用いた展示などによりメディアアーツ都市・札幌の冬の魅力を市民や観光客にアピールするとともに、同時期に札幌都心で開催されるさっぽろ雪まつりをはじめとした他のイベントとも連携することで、アートを軸とする都心部の賑わいづくりや周遊性の向上を目指すものです。

<開催期間>.....

毎年 2 月上旬から中旬

<来場者数>.....

開催年	H31 (2019)	R02 (2020)	R03 (2021)
来場者数	1,863 (展示会のみ)	5,349	1,937

北海道の冬のアートプロジェクトのアーカイブ化

- 平成 31 (2019) 年 2 月に、北海道で開催された冬のアートイベントを年表でたどるとともに、注目すべきプロジェクトをパネル展示や関係者のインタビュー映像などにより紹介するアーカイブ展を行いました。
- 下記のウェブサイト上に展示会のオンライン・アーカイブを公開しています。北海道で生まれた冬のアートに多くの人が出会い、さまざまな創造の可能性がさらに育まれていくことを目指しています。

公式サイト https://sapporo-community-plaza.jp/archive_winterchange.html

SNOW PLOW TRACE

- 冬が訪れると、北国で暮らす人々は厳しい寒さと雪の多さに対峙します。その大量の雪を迅速かつ効果的に整えていく「除雪」というインフラが札幌にはあります。平成 31 (2019) 年に始動した本プロジェクトでは、「除雪」という行為の様々な側面をメディアとして捉え、長期的な視点でリサーチと開発を進めています。

Extreme Data Logger & Radical Data Visualization

- これまで SIAF ラボが行ってきた環境データの取得及び可視化を包括・先鋭化したアートプロジェクトとして、令和 2 (2020) 年に新たに開始しました。冬の札幌や宇宙空間のような過酷な環境でのデータ取得を通じて、厳しくも豊かな北海道の自然に囲まれた近代都市・札幌ならではの、現代における芸術のあり方を考えます。
- 令和 3 (2021) 年に開催された「さっぽろウインターチェンジ 2021 Extreme Data Logger : 都市と自然の記憶」では、除雪車によって積み上げられた雪の塊をスキャンし、発泡スチロールを切削・再現することで彫刻作品に見立てた「除雪彫刻」などを展示しました。

特設サイト <https://siaflab.jp/wic2021/>



4.5. 文化資源の魅力発信

4.5.1. 文化財の魅力創造

「創造都市さっぽろ」の取組の一環として札幌市の文化資源を効果的に活用し観光や経済などにおける交流人口の増加につなげることを志向しています。日本最古の時計塔である「札幌市時計台」にメディアアーツを活用し新たな魅力を創造しました。

札幌市時計台パネル展&ミニ・プロジェクションマッピング

- 札幌市時計台は、平成 30(2018)年 6 月から 5 か月間にわたり、改修工事により休館しました。休館に際し札幌市役所において、これまでの時計台の歴史を描いたパネル展示と、**北翔大学**の協力のもと、時計台の二十分の一模型へのミニ・プロジェクションマッピングを行い、観覧人数は 4,486 名にのびりました。

札幌市時計台イルミネーション募金箱

- この募金箱は、北翔大学教育文化学部芸術学科小室晴陽研究室の協力により令和 2 (2020) 年に制作しました。募金箱は明治 22 (1889) 年頃の時計台を五十分の一スケールで再現しており、台座の投入口にコインや紙幣を入れると、イルミネーションが輝く仕組みです。学生の皆さんがプログラミングした明かりのパターンを、手のひらに乗る小型コンピュータ Arduino を使用して制御しています。募金は札幌市文化芸術振興基金へ積み立て、時計台の展示物の修繕・更新に活用します。

< 寄付総額 >.....

年度	R02 (2020)
寄付総額	151,175 円



4.5.2. 文化ツーリズムの促進

札幌市の多彩な歴史・文化・芸術資源の魅力を効果的に活用した「文化ツーリズム」の可能性を探求し、

- ・地域の文化資源を活かした観光事業に関する先進事例の調査
- ・札幌圏の観光事業者・文化関係者等へのヒアリング
- ・モニターツアーの実施
- ・札幌市内の文化施設やアートパークの観光マップの作成（付録 II 参照）などを行っています。



音楽×メディアアーツ

日本最大級ともいわれるパイプオルガンを備える札幌コンサートホール Kitara では、令和 3 (2021) 年 8 月に、プロジェクションマッピングとパイプオルガンを融合したコンサートを実施しました。



4.5.3. 歴史と文化を可視化するメディアアーツ

アイヌ文化を発信する空間ミナバ

- 平成 31 (2019) 年 3 月に、札幌観光の玄関口の一つであるさっぽろ駅構内において、「アイヌ文化を発信する空間」(愛称:ミナバ)を開設しました。市民や国内外からの観光客が、北海道の先住民族であるアイヌ民族の文化に触れるきっかけを作ることを目的とする空間です。
- 「ミナバ」は、「大勢が笑う」という意味のアイヌ語で、ここを訪れる皆さんに笑顔になってほしいという願いが込められています。ミナバでは、アイヌ語による天気予報やアニメーションを放映する大型ビジョン「メインシアター」、アイヌ民族の伝統的な生活を再現した CG アニメーションによる体験コンテンツ、道内各地の気温と連動して色を変える柱など、メディアアーツを活用してアイヌ文化を紹介しています。
- 「ミナバ」のメインシアターでは、世界的に活躍するアーティスト ボリス・ラベ氏(フランス)が札幌・北海道をリサーチして制作したアニメーション作品「SIRKI(シリキ)」を上映しています。アイヌ民族が制作した着物の文様を参照した小さな文様が伝統音楽のリズムの中で躍動する美しい作品です。

作品詳細 <https://www.borislabbe.com/Sirki>

博物館活動センターにおける地形模型映像投影

- 博物館活動センターは、石狩湾から支笏湖までを範囲とした札幌市の地形模型に、1億3,000万年は海だった札幌の現在までの成り立ちをプロジェクションマッピングで投影する展示を製作しました。



アイヌ文化を発信する空間ミナバ メインシアター

CG アニメーションによる体験コンテンツ「ハコニワコタン」

アイヌ文化のリサーチを行うボリス・ラベ氏

道内各地の気温と連動して色を変える「カムイの木樹」

5. UCCN の目標達成に向けて都市間連携を通じて実施する主な取組

前回の報告書の提出以来、札幌市はメディアアーツ分野の都市と日本の創造都市との連携を中心に、優良事例の共有や、アーティスト、研究者や専門家の活動機会拡大を目的として、下記の取組を進めてきました。

5.1. UCCN メディアアーツ都市等との交流促進

5.1.1. 札幌国際芸術祭（SIAF）を通じた国際文化交流

UCCN 加盟都市のフェスティバル等の視察や国際会議でのパネリストとしての参加を目的に、札幌国際芸術祭（SIAF）事務局から SIAF2020 企画ディレクター（メディアアート担当）、SIAF2020 コミュニケーションデザインディレクター、SIAF 事務局や SIAF ラボのメンバーなどを派遣しています。（3.4.参照）また、SIAF ラボが主導する **Space-Moere プロジェクト**の作品や記録映像の UCCN 加盟都市への出展を通じて、地元アーティストの国際展開をサポートし、国際文化交流を促進しています。

公式サイト <https://space-moere.org/ja/>

5.1.2. Sapporo Media Arts Online Talk 2021

未だ終わりの見えないコロナ禍で、多くのイベントや表現・創作の機会が失われました。札幌と、スロバキアはコンツェを拠点に活躍する作家たちの実例から、アーティストやクリエイターが創作活動を守りながら生き抜く方法や支援の在り方を考えるトークイベントを令和 3（2021）年 2 月に実施しました。

5.2. UCCN 加盟都市との異分野交流促進

5.2.1. ヤマハ x クリプトン歌声合成技術 & 文化トークセッション

ユネスコ音楽分野の浜松市、メディアアーツ分野の札幌市には、日本の歌声合成技術ビジネスを牽引するヤマハ株式会社、クリプトン・フューチャー・メディア株式会社の 2 社がそれぞれ拠点を設けています。

令和元（2019）年 10 月に行われたクリエイティブコンベンション NoMaps のトークセッションでは、両社より、歌声 & 音声合成技術の開発を手掛けている担当者が登壇し、歌声合成技術の展望と発展性について語り合いました。

5.2.2. 札幌市図書・情報館での特設プログラム

令和 2（2020）年 12 月、ユネスコ・デザイン都市神戸の拠点であるデザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）、札幌文化芸術交流センター SCARTS 及び札幌市図書・情報館の三者によるトークイベントを開催し、各施設の優良事例の紹介やディスカッションを通じて、アートと地域の人々をいかにつなぐか、そして様々な活動に人を巻き込む秘訣を探りました。

図書・情報館では、神戸市、札幌市、メディアアーツなど、創造都市に関係する本を通じた広報を行いました。また、デジタルサイネージにて、北海道の冬を想起させるアニメーション作品を上映しました。



札幌市図書・情報館での特別プログラム

5.3. アーティストのための機会創出

5.3.1. さっぽろ天神山アートスタジオ

さっぽろ天神山アートスタジオは、札幌市の中期滞在向けの宿泊施設「札幌天神山国際ハウス」を修繕し、アーティスト・イン・レジデンス施設として、平成 26（2014）年 5 月に開館しました。天神山緑地の自然豊かで静かな環境を活かし、創造的活動を行う人に対して滞在型の制作環境を提供するほか、年に一度、国際公募プログラムとして、国外からアーティストを招聘する取組も行っていきます。令和 2（2020）年～3（2021）年のプログラムは新型コロナウイルスの影響により、オンラインで実施しています。

公式サイト <https://tenjinyamastudio.jp/>

UCCN プログラム

- 平成 30（2018）年度以降は、UCCN メディアアーツ分野への加盟都市ゆかりのアーティスト（平成 30（2018）年度：リンツ（オーストリア）、トロント（カナダ）、令和元（2019）年度：グアダハラ（メキシコ））を招へいし、札幌での滞在経験をふまえた作品の制作に向けて、リサーチ・制作環境を提供しました。



5.3.2. さっぽろユキテラス

雪と光をモチーフにした作品を展示するメディアアーツ都市札幌を象徴するイベント（4.4.3.を参照）。

- 平成 30（2018）年には UCCN メディアアーツ都市のリンツ（オーストリア）からアーティスト 2 組を招待し、UCCN の認知度向上にも資するイベントへと展開しました。

5.3.3. メディアアーツ分野都市共同制作プログラム「City to City」

メディアアーツ創造都市の国際連携により、不確実な時代における持続可能な開発の原動力としての芸術と創造性を支援する連携事業として、オンラインの共同制作プログラムを実施しました。

- 令和 2（2020）年は、札幌からのサウンドアーティスト大黒淳一氏が、コシツェ（スロバキア）からの Beáta Kolbašovská 氏と「人間の責任／ Human Responsibility」をテーマにした作品を共同制作しました。作品は各参加都市のプラットフォームにて公開し、札幌では、オンライントーク（5.1.2 を参照）を通じて成果発表を行いました。
- 2 回目の開催となる令和 3（2021）年には、メディアアーティストの岡碧幸氏が参加し、カリ（コロンビア）代表の Mauricio Diaz 氏、長沙（中国）代表の Yilin Wang 氏とともに、「Play!」をテーマとした作品制作を行いました。



6. 今後4年間のアクションプラン

平成25（2013）年10月に策定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン」の個別計画として、文化芸術に関する施策を実施するための札幌市文化芸術基本計画（第三期）を令和元（2019）年6月に策定しました。令和元（2019）年から令和3（2023）年の4年間の計画の中で、創造性が最も発露される分野である文化芸術がまちの至るところまで浸透し、多方面での創造的な活動に結びつき、人々の交流を創出していくことで「創造性をめぐるまち さっぽろ」を目指すことをテーマに掲げています。この計画の中で、SDGsの目標と施策を関連づけ、積極的に取組を推進しています。

次期まちづくり戦略ビジョンは市制100周年を迎える令和4（2022）年にスタートを切るべく、現在策定作業を進めているところです。

札幌市のSDGsにおける取組として、日本の内閣府が平成30（2018）年から開始した取組にて同年6月に、SDGsの達成に向けた優れた取組を提案する都市の初めての選定にて、札幌市は「SDGs未来都市」として選定。「SDGs未来都市計画」を策定し、今後もSDGs達成に向けた取組を続けています。



6.1. 地域レベルの取組

6.1.1. 冬季イベントの継承と新たな魅力創造

さっぽろ雪まつりやさっぽろホワイトイルミネーションなどのイベントにおいて、プロジェクションマッピングなどのメディアアーツを活用した演出を行い、都心部のさらなる魅力を創出します。

6.1.2. 札幌市民交流プラザ等を活用した人材育成・クリエイター支援

「創造都市さっぽろ」を象徴的に発信する場として、平成30（2018）年にオープンした札幌市民交流プラザ（札幌文化芸術劇場 hitaru、札幌文化芸術交流センター SCARTS、札幌市図書・情報館）における、札幌で文化芸術活動を行う人々への支援を行う機能や市民の仕事やくらしの課題を解決する機能などを活用して、下記の創造的な人材を育成するための取組を実現します。

- 国内ユネスコ創造都市との連携事業
- 中高生へのエデュケーションプログラムと展示会の実施

6.1.3. 文化芸術の持つ包摂的機能の浸透

新型コロナウイルス感染症により、多くの子ども達の文化芸術に接する機会や発表機会が失われました。今後も、オンラインも含めた機会を模索し、障がいのある子どもも含めた子どもを対象とするワークショップや発表の場を創ります。また、障がいのある子どもたちが3Dモデリングの技術を学び、モノづくりの楽しさを通じて今後の可能性を広げる機会を創ります。

6.2. 国際レベルの取組

6.2.1. 創造都市ネットワークを活用した連携事業の充実

令和5（2023）年度に開催される次回「札幌国際芸術祭（SIAF）」や市内外のイベントの機会に、日本国内のユネスコ創造都市や、メディアアーツ分野の加盟都市と連携し、共同展示会や交換プログラムなど、交流の活性化に資する取組を実施します。

アーティスト・専門家を含む都市間ネットワークの拡大・質的向上を図り、人材・企業の国際的な活躍の機会を創出します。

6.2.2. 文化芸術やスポーツの魅力を活用したシティプロモート戦略

札幌の地域特性を生かした多様な芸術表現に触れられる「札幌国際芸術祭（SIAF）」の2023年度の開催時において、国際的な文化交流を行うとともに、2030年冬季オリンピック・パラリンピックの招致と連携した文化イベントを実施します。

6.2.3. UCCNを通じた都市ブランド向上

上記、創造都市ネットワーク連携事業および札幌国際芸術祭を含む文化イベントを通じ、UCCNの認知度向上に貢献します。また、メディアアーツ都市札幌の人材育成に関するモデル事業を継続的に行い、札幌を代表する国際的な人材創出を目指すことで都市ブランド向上に寄与します。

6.3. アクションプラン案の実施に係る年間見込予算額

予算議決前のため、具体的な額を示すことはできませんが、概ね令和2（2020）年度、令和3（2021）年度と同等の予算規模を見込んでいます。

〈主な関連予算〉.....

年度	R02 (2020)	R03 (2021)
創造都市ネットワーク活用費	32,000 千円	29,000 千円
国際芸術祭事業費	401,000 千円	64,000 千円

その他、令和3（2021）年度は文化庁の地域創造拠点事業の助成対象として下記の事業が採択されています。

- ユキテラスあるいはこの事業の代替事業（北3条広場）
- NoMaps メディアアーツ事業
- SCARTS エデュケーションプログラム
- 図書・情報館連携事業

他にも、イオングループの協力により、電子マネーカード「創造都市さっぽろ WAON」を利用して払われた額0.1%が札幌市に寄付される仕組みとなっており、札幌市の文化芸術振興に活用しています。

〈寄付総額〉.....

年度	H29 (2017)	H30 (2018)	R01 (2019)	R02 (2020)
寄付総額	4,663 千円	4,414 千円	4,716 千円	6,783 千円



6.4. 広報周知に関する計画

札幌市は、下記のとおり UCCN に関する意識啓発を行います。

- 日本唯一のメディアアーツ都市として、ウェブサイトやリーフレット、SNS 等を通じ、国内外に積極的に情報発信を行っていきます。
- 令和3（2021）年7月のUCCN総会における取組事例の発表（4.2.2参照）のように、本市における優良事例を、UCCNを通じて世界の都市と共有し、アドボカシー（政策提言）の具体的事例として提供していきます。
- その他、市内において、メディアアーツ分野をはじめとした様々な創造的活動を支援するイベントを開催することで、札幌市民や企業に対してユネスコ創造都市ネットワークの意義や加盟の効果に係る啓発を行います。
- こうしたネットワークを通じ、創造都市に関心を持つ地方自治体等に対して、ユネスコ創造都市ネットワークの意義等を発信し、加盟申請への助言や協力などの支援を行うことで、ネットワークの発展に貢献してまいります。

参考 URL <https://www.city.sapporo.jp/kikaku/creativecity/en/index.html>

7. 新型コロナウイルスに関する対応事例及び復興に向けた取組

文化芸術部門が新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることを踏まえ、札幌市は文化芸術に携わる方々への支援策等（一部現在も支援継続中）を後述のとおり実施しました。また、札幌の文化芸術に関する短期的及び中長期的な施策の推進に関して意見交換を行うため、市内の文化芸術関係者から市民委員を公募し、新たに「札幌文化芸術未来会議」を設置しました。札幌市で文化芸術活動に携わっている方々の現状、課題及びニーズ等の実態を幅広く把握するためのアンケートも実施し、今後の施策に反映させて行く予定です。

その他のコロナ禍における実験取組としては、UCCN メディアアーツ都市との連携による共同制作プログラム「City to City」(5.3.3. 参照)、クリエイティブコンベンション NoMaps 中の「あしたのげいもり」や「SYNCHRONICITY 2020」(4.2.2. 参照)を実施しています。

7.1. 札幌市文化芸術活動再開支援事業

文化芸術に携わる方々（文化芸術活動を行う市民、芸術家、施設関係者等）の活動再開を支援し、札幌市内の文化芸術活動の早期の復興や市民の文化芸術の鑑賞機会を確保することを目的として、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている文化芸術活動（公演・展示）に対し、劇場、ホール、ライブハウス、ギャラリー場等の施設使用料に係る支援金を支給しています。

名称	札幌市文化芸術活動再開支援事業
実施日程	<ul style="list-style-type: none"> 令和2（2020）年10月16日 - 令和3（2021）年3月15日 令和3（2021）年3月16日 - 令和4（2022）年3月15日
支援内容	施設使用料の最大50%を助成
認定施設 (令和3年7月末時点)	<ul style="list-style-type: none"> 公演系 57施設 展示系 16施設
交付決定額	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度：44,532,430円 令和3年度：151,604,973円（令和3年6月末現在）
予算額	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度：280,000,000円 令和3年度：233,467,000円（令和2年度繰越）
主催	札幌市

7.2. 札幌市文化芸術公演配信補助金「さっぽろアートライブ」

札幌市内の文化芸術公演活動を支援するため、札幌を中心に活動している文化団体等（個人・団体）が、通常は集客で行う実演公演を無観客公演にし、その様子をインターネットで配信（ライブ又は収録）する場合、審査のうえ、その経費の一部を補助しました。札幌市文化芸術公演配信補助金「さっぽろアートライブ」で採択した公演映像は、事業期間中に札幌市の公式サイトにてURLを掲載しました。

名称	さっぽろアートライブ
募集期間	令和2（2020）年5月20日 - 6月10日
事業補助対象期間	令和2（2020）年6月25日 - 令和3（2021）年1月31日
支援内容	団体200万円、個人50万円を上限に助成
選考結果	<ul style="list-style-type: none"> 個人の部：申請数55件、うち採択26件 団体の部：申請数129件、うち採択61件
予算額	101,000,000円（補正予算含む）
主催	札幌市

7.3. 作品発表、販売機会を失った地元美術家の展示販売会の実施

今なお新型コロナウイルスが猛威をふるい、美術業界においても多くの展覧会やアートフェアなどの祭典が影響を受けています。ギャラリーなどでの展示も例外ではなく、そのため発表機会とともに販売の機会を失った美術家も少なくありません。

本企画はそうした地域的美術家に対するコロナ禍での支援、ならびに地域のアートマーケットの活性化を目的として、札幌を中心としたギャラリーが取り扱う北海道の美術家の作品を展示・販売しました。美術家にとっての作品発表と販売の機会となるにとどまらず、一般市民や美術愛好家、また美術関係者などにとっても、今日の北海道美術を広く見渡す機会となりました。

名称	札幌ミュージアム・アート・フェア2020-21
開催日程	令和2（2020）年12月19日 - 令和3（2021）年2月14日
会場	札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館本館
出展者	14ギャラリー
予算総額	7,200,000円
主催	札幌芸術の森美術館、本郷新記念札幌彫刻美術館（札幌市芸術文化財団）、札幌市
後援	札幌市教育委員会

付 録

Ⅰ 統計データ

● 人口（住民基本台帳ベース） 令和3（2021）年7月1日

合計	1,962,874
0～14歳	216,429
15～64歳	1,200,785
65歳以上	545,660

● 市内総生産（実質）（出典：札幌市まちづくり政策局「市民経済計算」）

平成29（2017）年度	6.75兆円
平成30（2018）年度	6.84兆円

● 市内民営事業の従事者数（出典：総務省統計局「経済センサス」）

平成28（2016）年	838,911
-------------	---------

● クリエイティブ産業の従事者数（出典：総務省統計局「経済センサス」をもとに札幌市経済観光局）

平成28（2016）年	35,934
-------------	--------

● 北海道のIT産業の売上高（出典：一般社団法人北海道IT推進協会「北海道ITレポート」）

平成29（2017）年度	4,391億円
平成30（2018）年度	4,586億円
令和1（2019）年度	4,813億円
令和2（2020）年度	4,731億円

※上記の数値は北海道全体の統計値ですが、平成26（2014）年度時点で売上高の約88%、従業員の83%を札幌所在の事業所が占めています。

● IT技術や・デザイン映像等のコンテンツを活用して高付加価値をつけようと思っている企業の割合（出典：札幌市経済観光局「札幌市企業経営動向調査」）

平成29（2017）年度	上期 20.3% / 下期 20.6%
平成30（2018）年度	上期 23.7% / 下期 22.2%
令和1（2019）年度	上期 23.9% / 下期 24.9%
令和2（2020）年度	上期 28.0% / 下期 31.2%

● 観光客入込数

令和1（2019）年度 4～9月	969万
令和2（2020）年度 4～9月	300万（前年同時期 69.1%減少）

※外国人宿泊者数は約6千人で99.5%の減少となりました。

● 主な施設利用者数

関連項目	施設名	年度 **			
		2017	2018	2019	2020
4.1.1.	札幌市民交流プラザ	-	112.9万	73.8万	14.8万
4.2.2.	札幌芸術の森	43.3万	35.1万	60.7万	43.4万
4.3.1.	札幌市青少年科学館	35.2万	33.0万	29.4万	11.6万
4.5.1.	札幌市時計台	22.4万	21.5万	24.4万	8.2万
4.5.4.	博物館活動センター	9,252	10,619	9,057	2,816
5.3.1.	さっぽろ天神山アートスタジオ（滞在スタジオのみ）	4,920	4,187	3,196	1,775
-	インタークロス・クリエイティブ・センター	9,700	9,150	8,638	4,908
-	札幌コンサートホール	33.8万	34.3万	30.1万	2.8万
-	教育文化会館	48.1万	58.7万	53.9万	12.3万
-	札幌市民ギャラリー	14.0万	13.8万	11.5万	3.8万
-	本郷新記念札幌彫刻美術館	9,993	10,359	9,226	10,863

**日本の行政年度は4月1日から翌年の3月31日までの期間を指しています。

● 主なイベント参加者数

関連項目	事業名	開催年			
		2018	2019	2020	2021
4.1.1.	++A&T—SCARTS ART & TECHNOLOGY Project—(WS+展示会)	-	9,214	3,328	集計中
4.1.2.	札幌国際芸術祭	-	-	130,788 *1	-
4.2.1.	NoMaps	22,539	23,611	382,295 *1	集計中
4.2.1.	ローカル・クリエイターズ・エキシビション	2,028	2,490	-	1,593
4.2.4.	定山溪ネイチャールミナリエ	51,409	53,616	43,161	集計中
4.4.1.	さっぽろ雪まつり	254.3万	273.7万	202.1万	77.1万 *2
4.4.3.	さっぽろユキテラス	2万	2.6万	1.8万	中止
4.4.4.	さっぽろ垂氷まつり	12,682	10,335	10,364	事業終了
4.4.5.	さっぽろウインターチェンジ（展示会のみ）	-	1,863	5,349	1,937

*1 オンラインの視聴回数を含めた数値を掲載しています。

*2 オンラインの視聴者数を掲載しています。

創造都市さっぽろ

札幌市には、
創造性を培う基盤となり、
世界的にも評価の高い
文化施設が多数あります。

このガイドでは、
大通公園を軸に
まちなか地区を散策しながら
巡ることのできる美術館や博物館と、
地下鉄やバスで中心部から
1時間以内の郊外地区にある
四季折々の北海道の自然と文化芸術を
同時に楽しむことができる
公園をご案内します。

札幌ならではの自然と溶け合う
文化芸術をお楽しみください。

掲載されている情報は2020年3月現在のものです。
臨時休館等の可能性もありますので、最新の情報を各施設に直接ご確認のうえ
お出かけください。

- 住所
- 休館日
- 電話番号
- 駐車場
- バリアフリー
- 開館時間
- 観覧料
- アクセス
- 休憩場所

Hokkaido University Museum 北海道大学総合博物館

- 札幌市北区北10条西8丁目
- 10:00~17:00 (6~10月の金曜21:00まで)
- 月曜(祝日等の場合翌平日)、年末年始、その他臨時休館日あり
- 無料
- 011-706-2658
- JR札幌駅 ①北口から徒歩10分
- なし
- カフェ
- 多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



<http://www.museum.hokkaidu.ac.jp/>

1929年竣工の歴史的建築物。恐竜の復元骨格やオホーツク文化の土器など、300万点の学術標本から多種多様な展示物が揃い、バックヤードをのぞき見できる展示室も。札幌農学校時代からの歴史や現在の教育と研究を紹介。企画展示も開催。



Shiryokan (Former Sapporo Court of Appeals) 札幌市資料館(旧札幌控訴院)

- 札幌市中央区大通西13丁目
- 9:00~19:00 (SIAFラウンジに限り第2層4木曜は16:00まで)
- 月曜(祝日等の場合翌平日)、年末年始
- 無料
- 011-251-0731
- 地下鉄西11丁目駅 ①01 1番出口から徒歩5分
- なし
- カフェ
- なし(階段昇降機あり)



<http://www.s-shiryokan.jp/>

1926年に札幌控訴院として建てられた札幌市指定の有形文化財。現在は復元された刑事法廷のほか、札幌出身の漫画家・画家おおば比呂司の記念室など多目的に使われている。札幌国際芸術祭の情報を発信するカフェ「SIAFラウンジ」ではアート関係の書籍を豊富に取り揃えている。



Hongo Shin Memorial Museum of Sculpture, Sapporo 本郷新記念札幌彫刻美術館

- 札幌市中央区宮の森4条12丁目
- 10:00~17:00 (入場16:30まで)
- 月曜(祝日等の場合翌平日)、年末年始、展示期間
- 一般200円(展示により異なる場合あり)
- 011-642-5709
- 地下鉄西28丁目駅 ①05 2番出口からバス5分「彫刻美術館入口」下車、上り坂を徒歩10分/駅からタクシー5分
- 無料10台
- なし
- なし



<http://hongo-shin-smms.jp/>

静かな住宅街にある美術館で、札幌出身の彫刻家・本郷新(1905~1980)の作品などを収蔵・展示。上遠野徹設計の旧邸宅を用いた記念館の2階からは札幌市街が眺望できる。



Hokkaido Museum of Modern Art 北海道立近代美術館

- 札幌市中央区北1条西17丁目
- 9:30~17:00 (入場16:30まで)
- 夏期金曜19:30まで(入場19:00まで)
- 月曜(祝日等の場合翌平日)、年末年始、展示期間
- 常設展は一般610円(特別展は展示ごとに設定)
- 011-644-6881
- 地下鉄西18丁目駅 ①07 4番出口から徒歩5分
バス停「道立近代美術館」から徒歩1分
- なし(提携有料駐車場あり)
- なし
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



<http://www.dokyoji.pref.hokkaido.jp/hkm/m/>

2,871㎡の展示室を持つ北海道の文化拠点。常設展では、北海道の美術、エコール・ド・パリ、ガラス工芸などの収蔵品を展示するほか、国内外のユニークで多彩な作品を展示する特別展を開催。三岸好太郎美術館まで徒歩3分。



Migishi Kotaro Museum of Art, Hokkaido mima 北海道立 三岸好太郎美術館

- 札幌市中央区北2条西15丁目
- 9:30~17:00 (入場16:30まで)
- 月曜(祝日等の場合翌平日)。ただし、11月1日~7日は開館
- 年末年始、展示期間等
- 所蔵品展は一般610円(特別展は展示ごとに設定)
- 011-644-8901
- 地下鉄西18丁目駅 ①07 4番出口から徒歩7分
バス停「道立近代美術館」から徒歩4分
- 無料2台(提携有料駐車場あり)
- カフェ
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出

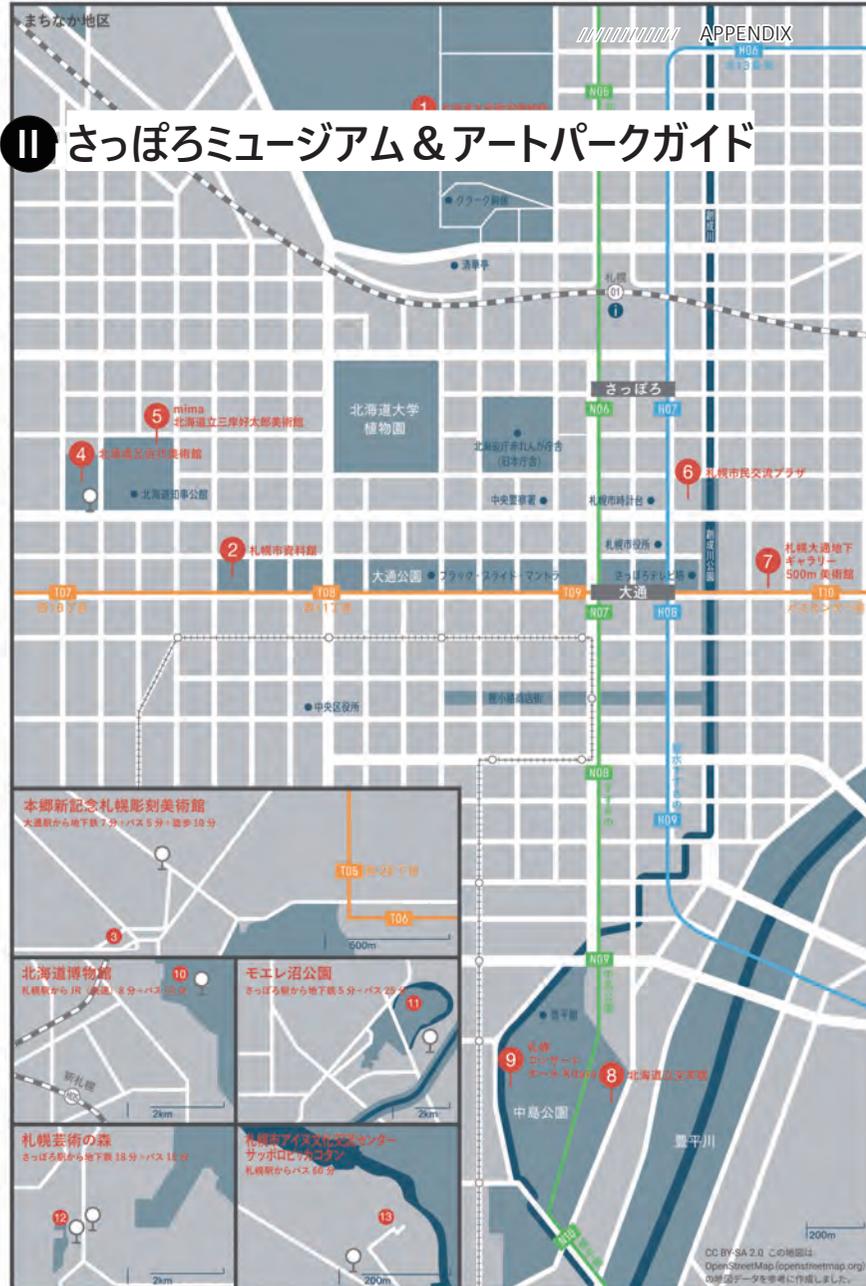


<http://www.dokyoji.pref.hokkaido.jp/hkm/m/>

北海道知事公館庭内にある美術館。大正から昭和初期の日本近代洋画史に鮮やかな光彩を放った札幌出身の画家・三岸好太郎(1903~1934)の作品などを収蔵・展示している。



II さっぽろミュージアム&アートパークガイド



市内公共交通のご案内
さっぽろえきバスnavi
えきバス・テル(札幌市コールセンター)
TEL:011-222-4894
年中無休 8:00~21:00

札幌市内のバリアフリー施設情報
バリアフリータウンマップ

北海道内各地の美術館等を紹介
アートギャラリー北海道

北海道の歴史や文化を紹介
北海道歴史・文化ホールサイト
AKARENGA

札幌の各種文化イベント情報
さっぽろArt & Culture
インフォメーション

札幌の散策コースを紹介
札幌散策
一野外彫刻を楽しむ小さな旅

CC BY-SA 2.0 この地図は、
OpenStreetMap (openstreetmap.org)
の地図データをもとに作成しました。

- 地下鉄南北線
- 地下鉄東豊線
- 地下鉄東西線
- JR
- 市電
- 観光案内所

創造都市 さっぽろ ミュージアム & アートパークガイド

Creative City Sapporo
Guide of Museums and Art Parks

Sapporo Community Plaza 札幌市民交流プラザ

6

<http://www.sapporo-community-plaza.jp/>

- 札幌市中央区北1条西1丁目
- 施設は9:00-22:00（館内施設はそれぞれ異なる）
- 図書・情報館は平日9:00-21:00、休日10:00-18:00
- 月1回（観音4水曜）
- 年末年始（図書・情報館は第2水曜も休館）
- 図書・情報館は無料（その他はイベントごとに設定）
- 011-271-1000
- 地下鉄大通駅 **N07** **T09** **H03** 30番出口から徒歩2分（地下歩道で直結）
- なし（建物地下に有料駐車場あり※提携なし）
- カフェ、レストラン
- 車いす使用者用駐車場（有料、要予約）多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



2018年に開館した複合文化施設。2,302席の「札幌文化芸術劇場 hitaru」、芸術文化イベントのフライヤーが手に入る情報コーナーや、複数の貸しスタジオを持つ「札幌文化芸術交流センター SCARTS」、WORK/LIFE/ARTがテーマの「札幌市図書・情報館」からなる。



Sapporo Odori 500-m Underground Walkway Gallery 札幌大通地下ギャラリー 500m 美術館

7

<http://s500m.jp/>

- 札幌市中央区大通西1丁目～東2丁目
- 7:30-22:00
- 無料
- なし
- 011-211-2261
- 地下鉄大通駅 **N07** **T09** **H03** 23-26番出口付近から地下2階へ（直結）
- 地下鉄バスセンター前駅 **H10** 直結
- 地下鉄バスセンター前駅地下駐車場あり※提携なし
- なし（大通駅直結地下駐車場あり※提携なし）
- なし
- 車いす使用者用駐車場（有料、提携なし）・多目的トイレ・エレベーター



地下鉄大通駅とバスセンター前駅を結ぶ地下通路に設置された、雪深い札幌らしいギャラリー。地元アーティストを中心に国内外の芸術文化を発信するため、年4回程度企画展を実施。市民ボランティアが活動を支えている。



Hokkaido Museum of Literature 北海道立文学館

8

<http://www.h-bungaku.or.jp/>

- 札幌市中央区中島公園1-4
- 9:30-17:00（入場16:30まで）
- 月曜（祝日等の場合翌平日）、年末年始
- 常設展は一般500円（特別展は展示ごとに設定）
- 011-511-7655
- 地下鉄中島公園駅 **N09** 3番出口から徒歩6分
- 無料7台
- カフェ
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



北海道にゆかりのある文学資料を収蔵する北海道初の総合文学館。常設展では「北海道の文学」と題して、アイヌ民族の文学、小説・評論、詩、短歌、俳句、川柳、児童文学などを幅広く紹介するほか、年に5回ほど特別展を開催。



Sapporo Concert Hall Kitara 札幌コンサートホール Kitara

9

<http://www.sapporo-concert-hall.jp/>

- 札幌市中央区中島公園1-15
- 9:00-22:00
- 第1回3月曜（祝日等の場合翌平日）、年末年始
- イベントごとに設定
- 011-520-2000
- 地下鉄中島公園駅 **N09** 3番出口から徒歩7分
- なし
- レストラン（公演のある日のみ営業）
- 車いす使用者用駐車場（要予約）・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



北海道初の音楽専用ホール。2,008席の大ホールに備え付けられたパイプオルガンには4,976本ものパイプが使われており、クラシック音楽などの公演が日々開催される。札幌交響楽団の本拠地であり、夏季には国際教育音楽祭 PMFのメイン会場ともなっている。



Hokkaido Museum 北海道博物館

10

<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/>

- 札幌市厚別区厚別町小野郷53-2
- 5-9月は9:30-17:00（入場16:30まで）
10-4月は9:30-16:30（入場16:00まで）
- 月曜（祝日等の場合翌平日）、年末年始、その他臨時休館日あり
- 総合展示室は一般600円（特別展等は展示ごとに設定）
- 011-898-0466
- 地下鉄新さっぽろ駅 **H12** //R新札幌駅 **C4** からバス15分「北海道博物館」下車すぐ
- 無料
- カフェ
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



野幌森林公園のなかにある北海道の自然・歴史・文化を紹介する総合博物館。3,011㎡の総合展示室では「北東アジアのなかの北海道」「自然と人とのかわり」をコンセプトに、5つのテーマで約3,000点の資料を展示。歴史的建造物を移築復元した野外博物館「北海道開拓の村」まで徒歩15分。



Moerenuma Park モエレ沼公園

11

<http://moerenumapark.jp/>

- 札幌市東区モエレ沼公園1-1
- 公園は7:00-22:00（入場21:00まで）
- 園内施設はそれぞれ異なる
- 公園は無料（園内施設はそれぞれ休業日あり）
- 無料
- 011-790-1231
- 地下鉄環状通車駅 **H10-C4** からバス25分「モエレ沼公園東口」下車
ほか複数バス経路あり
- 無料
- カフェ・レストラン
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



ゴミ処理場跡地に生まれた189ヘクタールの公園。幾何学的ななかたちを多用した山や噴水、遊具などの施設が配置されている。彫刻家イサム・ノグチが基本設計を手がけ、「公園全体をひとつの彫刻作品とする」というコンセプトのもとにつくられた。



Sapporo Art Park 札幌芸術の森

12

<http://artpark.or.jp/>

- 札幌市南区芸術の森2丁目75
- 公園は9:45-17:00（6-8月は17:30まで）
- ※札幌芸術の森美術館入場は閉館の30分前まで
- 4月下旬-11月上旬は無料
- 11月上旬-4月下旬は月曜（祝日等の場合翌平日）、年末年始
- 入館無料（園内施設はそれぞれ設定）
- 011-592-5111
- 地下鉄真駒内駅 **H12** からバス15分「芸術の森入口」/「芸術の森センター」下車
- 有料（普通車500円）
- カフェ・レストラン
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



市南部の自然のなかに広がる39ヘクタールの公園。札幌、北海道ゆかりの作家の作品を収蔵する「美術館」、自然と彫刻の両方を味わうことができる「野外美術館」や各種工房などの施設が敷地内に点在。雪深い時期には冬期休館する野外美術館が開放され、かんじきを借りて散策できる。



Sapporo Pirka Kotan 札幌市アイヌ文化交流センター サッポロピリカコタン

13

<http://sapporo-pirka.com/>

- 札幌市南区小金湯27
- センターは8:45-22:00
- 展示室・庭園は9:00-17:00
- 月曜、祝日、毎月最終火曜、年末年始
- 入館無料（展示室は有料 一般200円）
- 011-596-5961
- 地下鉄さっぽろ駅 **H07** **H10** //R札幌駅 **C4** からバス60分
- 地下鉄真駒内駅 **H12** からバス40分「小金湯」下車徒歩6分
- 無料
- なし
- 車いす使用者用駐車場・多目的トイレ・エレベーター・車いす貸出



サッポロピリカコタンはアイヌ語で「札幌の美しい村」。古くからの湯治場である小金湯の自然の中に、アイヌ民族が住んでいたチセ（家屋）などを再現している。展示室にはアイヌ民族の伝統衣装や民具など約300点を展示。



SAPPORO



定山溪ネイチャールミネリエ

ユネスコ創造都市ネットワーク加盟資格モニタリング報告書（2017-2021）

発行

札幌市 市民文化局文化部 文化振興課
060-0001 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
TEL 011-211-2261



発行日 2021 年 11 月

01-D05-21-1850
R3-1-163



SAPPORO

City of Media Arts
Designated UNESCO
Creative City in 2013



unesco

Member of
the Creative Cities Network